

ソプラノの常森寿子さんに
第9回鳥井音楽賞決まる

第9回鳥井音楽賞(1977年度)は、1月20日東京・赤坂のサントリービルで開かれた選考委員会で、ソプラノの常森寿子さんに決まった。同賞は日本のクラシック音楽の発展、向上に最も力を尽くした日本人に贈られるもので、女性では常森さんが初めて。贈賞式は3月上旬に行なわれる予定。

この日午前10時からの選考委員会には、宮沢縦一、芥川也寸志、木村重雄氏ら9人の選考委員が出席。まず、各選考委員が個別に推せんした個人12人、団体7の候補者を対象に選考を開始。3時間にわたる慎重な審査の結果、常森さんを選ぶことで全員の意見が一致、引き続き理事会で正式承認された。

受賞した常森さんは、昭和17年生まれ。東京芸術大学声楽科卒業。現在、武蔵野音楽大学講師、2期会正会員。

受賞理由は、オペラ、コンサートでの完璧な歌唱力が認められたもの。とくに去年5月、東京文化会館で行なわれた2期会公演のオペラ『ルチア』で演じたルチア役は『大劇場にふさわしい豊かな響きを持った美しい声と安定した的確な歌唱技術による見事な表現で、日本人としては最も新鮮な主演歌手』(宮沢氏)と高く評価された。

受賞の知らせを聞いて発表会場にかけつけた常森さんは『こんなに名誉ある賞をいただくななんて思ってもいなかったので、大変感激している。自分自身に課せられた大きな重みを感じるが、これからもベルリーニやドニゼッティのオペラなど自分の声に合ったものを力いっぱい歌っていきたい』と、喜びに頬を紅潮させながら感想を述べた。

なお、鳥井音楽賞は、昭和44年サントリー(株)創立70周年を記念して設けられたもので、受賞者には鳥井音楽財団(佐治敬三理事長)から賞状、賞金(百万円)、副賞が贈られる。

(写真説明)

第9回鳥井音楽賞で挨拶する佐治敬三鳥井音楽財団理事長

第9回鳥井音楽賞受賞者 常森寿子氏

以 上